

看護師養成部会（第9回）会議録

日 時：平成26年2月13日 午後1時30分開会

出席委員：上田委員、久保出委員、西委員、福田委員（50音順）

欠席委員：川崎委員

<会議の概要>

○議事

事務局 それでは、ただいまより加賀市医療提供体制推委員会看護師養成部会を開催いたします。本日は川崎委員が欠席となっております。それではここから、議事の進行を福田部会長にお願いをいたします。

議題1 看護師養成部会の検討結果（報告）について

福田部会長 それでは、議事に入らせていただきます。まず、議題1 看護師養成部会の検討結果（報告）について、事務局のほうから説明願います。これが最終的な取りまとめとなります。その上で今日もまたじっくりと議論いただきたいと思います。事務局のほうから説明願います。

事務局説明 **資料1** 看護師養成部会の検討結果（報告）について
(1) 看護師養成及び確保について ①【人づくり】の観点

福田部会長 ありがとうございます。かなり上手く従来の議論をまとめていただいていると思いますが、これについて、各先生方の意見をいただきたいと思いますが、いかがですか。

特に、本部会の目的が看護師の養成及び確保をどのように進めていくかということで、新しい病院のこれからのあり方に密接に関係してくるものと思われるので、是非、意見をいただきたいと思います。久保出委員、いかがですか。

久保出委員 おおむね、会話の中からすごく素敵な表現にまとめられているような気がして、このとおり私たちが努力していかなければならないことを提示していただけたものと考えます。奨学金のことについても、委員の中から出たものに対して、こんな形で形付けて具体化されたことに対しては、厚くお礼を申し上げたいと思いますし、今後の学生の励みにもなっていくものだと思います。やはり、これから統合新病院に向けて、あるいは、加賀市の医療を充実させていくためには、より良い看護職員を作っていくということが私たちにいただいた使命だと思っていますので、これらのことを行政のほうで支援していただく中で、それぞれの施設において、できる限りのことをやっていきたいと思います。特に、私が思うのは、学校の中で学生を教育するのは当たり前のことだと思いますが、それ以外にもリカレント教育をいかにやっていくかっていうところをもう少し具体化させて、加賀市全体の医療機関に務められている方々に対する支援体制

というのを、是非、構築していきたいと考えております。

福田部会長
上田委員

ありがとうございます。上田先生、いかがでしょうか。

今の看護学校を受験した、あるいは、看護学校で学びたいという学生が非常に多いです。その思いというのをそのままずっと継続させられるように、ここに掲げられている内容を本当に現実のものとして進められていかれたら良いと思います。それから、一般の医療機関との交流ですけれども、うちにも看護師がいますけど、いろんな勉強会とか刺激を受けて向上していくのであって、やりがいが出てくるはずです。そういう機会も、是非、設けていただきたいと思います。ここにも書いてありますけど、是非、お願いします。

福田部会長
西委員

西委員、いかがですか。

私もまとめていただいたものを読ませていただいて、これが私たち病院職員にとっての課題になってきたのではないかなと思っています。私が思うのは、やはり、人材教育ということで現任看護師の教育のことですが、行政の力も借りまして、技術とか知識の面はどんどん外へ行って身に付けることができるのですが、下の者を教育する、育てるというそういう心意気というのか、そういうところが何となく育っていないなど、人を育てるところをもう少し何かして、力を入れていかなければいけないのかなと思っています。

福田部会長

ありがとうございます。上田委員のほうから話がありましたように、非常に良く議論されてうまくまとめていただいたように思いますが、これをいかに現実のものとしていくか、どのように現実の加賀市の充実した医療体制に進めていくのか、要するに基本構想に盛り込んでいくのか、それを誰が実行していくのか、企画していくのか、ということが一番大切だと思います。以下のことでも同じことですが、ここで熱心に議論して、何回にも渡って議論していただいたこと、極めていろんな良い意見が出されております。これを本当の現実のものとしたら、加賀市の中の医療体制は磐石なものとなって、おそらく、日本でも有数な医療先進市になっていくだろうと期待されるわけです。このためには、これをまとめて実行に移していく仲立ちをしていただく、事務局の方が特に重要ではないかと思っています。今日は副市長さんも見えていますので、是非、以下のことを含めて、これを事務局で受け皿として受けていただいて、医療機関の仲立ちをしていただき御指導を賜って、加賀市の医療体制がこれからの新しいトレンドに対して、遅滞無く対応できるような体制を作っていただきたいというふうに切にお願いします。御承知のように数年で、今まで無かったような高齢化の大波が来ることが予想されています。そうすると、急性期を扱う大概の病院は急性期の患者さんを扱っている。ところが、多くの高齢化社会の患者さんはいろんな病気を多数持っていて、慢性疾患が多い患者さんになってくるわけです。この方が急性期病院に押し掛けますと急性期病院の機能が麻痺してしまいます。これがちょうど4～5年、5～6年で必ずやって来ますから、その時になってから手を打っても遅いわけです。おそらく、全国の市町村がずいぶんそれに対して対策を練っているか、あるいは、これから練ろうとしている段階だと思います。その意味では、加賀市は良い機会です。市民病院が新しく建設さ

れるという時期を迎えまして、これをベストチャンスと捉えて、ぜひとも全国に先駆けた高齢化社会対応の新医療体制の構築ということで、事務局先導では是非やっていただきたいと。この場合でも推進室の方々をはじめ、副市長さんの音頭取りで、是非、推し進めていただきたいと思います。これ以後いろいろ出てきますので、それに対してまた具体的な意見も出てくると思いますので、今日は、それを補充する意味の意見交換というふうに位置付けていきたいと思います。それでは、また後で意見をいただくとして、次の②に移っていただけますか。

事務局説明

(1) 看護師養成及び確保について ②【職場づくり】の観点

福田部会長

どうも、ありがとうございました。まず、この範囲内、②の中について、意見をいただきたいと思います。委員の方々の意見を求めます。

久保出委員

学校としては、ワークライフバランスうんぬんということは立場ではないのかもしれませんが、送り出す側として、やはり、学生たちがいかに働きやすい職場を探すかというところが非常に大きな今の学生にとっての課題になってきています。そういう意味も含めて、それぞれの病院がより働きやすい職場づくりのためのワークライフバランスを取り入れていく。あるいは、多様な勤務形態を取り入れるということが非常に大事になると思いますし、そういう活動を内外に、もちろん中の人もそうですが、外部に向かっても発信していったって、病院、あるいは、加賀市として、こういうふうなやり方で皆さんを支援しているということが分かるような取り組みも併せて必要ではないかなと考えています。最近、本当に学生は選び放題で自分の行きたいところはどこでも行きたいように就職できて、採用試験もほとんど無いという状況の中で、かなり、こういうことに重点を置いて探しているというのも事実ですので、是非、このようなことも取り組んでいっていただきたいと思いますと考えています。

上田委員

ワークライフバランスについてです。副市長さんにちょっと尋ねますが、病院のほうでワークライフバランスを推進すると言われていますが、市役所のほうでは、一体どのようなになっていますか。やはり、おおもとは市役所だと思いますので、そちらのほうもしっかりしていただかないと病院もついていけないと思います。

事務局（副市長）

もちろん、今、上田委員の言われるとおりで、市役所のほうもそういったことを考えた対応をしています。ただ、正直申し上げまして、必ずしもその形が実現されてないというところです。いわゆる、女性が働きやすい職場になっているかと言いますと、なかなかそういったことはできません。ただ、制度的には、育児休業とか、そういうことは公的機関ですので制度は整っていますし、また、男性がそういったところを手伝って支えていくということもできるようになっていますが、制度の活用がされていないという部分もあります。言われるとおり病院に限らず、社会全体としてそういう環境が整え

ばよろしいわけですが、先を見るという意味で、今後、市役所においてもそういう方向性に力を入れていきたいと考えています。

西委員

ワークライフバランス及び多様な勤務形態の導入に関しては、山中も加賀市民も今年はしっかり取り組んでいると思っています。それを続けていきたいと思っていますし、新病院に向けてですが、早めに運用をどうするかということを決めていただいて、お互いの病院でこれはこのようにという1つの体制を整えていきたいなと思っています。あと、病院の形態も全適ということになりますよね。そうすると、今は取り入れていない、公務員としてできない短時間正規職員とかも、多分、できるようになると思うので、その辺りからももっと多様な勤務形態を取り入れていってほしいと思っています。

福田部会長

それから、ここの中にある職場の業務の分担の洗い出し、見直しが必要だというふうにあります。実は、テレビで見たことがあります。例えば、病院の中では、手術するときもいろんな機材の用意が看護師の負担になっています。これを情報処理で端末を持っているだけで、何と何をどういう順序で用意したら良いかというのが、次々、タイムスケジュールで全部出てくると。それをただ用意していけば良いと。こうなってくると看護助手でもできるということで、かなり、看護師の労働負担を軽減できるというようなプログラムを見たことがあります。例えば、そういうものも含めて、いろんな意味で、看護師の業務の負担軽減というのも図られるのではないかなと。今の申し上げたのは一例ですが、病院の中の情報処理を含めて新しい統合病院では、そういったシステムを考えていただきたいなと思います。やはり、工夫が大事だろうと。だから、今までの習慣に捉われずというところは、確かに、これは「言うは易く行うは難し」ということで、非常に難しいとは思いますが、西看護部長を中心にそういうところを改めてやっていただければと。

西委員

私も勉強不足だと思いますので、その辺もっと勉強して情報を取ってきたいなと思います。

事務局

今、部会長が言われたように、統合新病院のほうでも電子カルテ等のシステムを有効に利用するということは、一応、念頭に置いています。西委員も言われたように、今から運用のほうをしっかりと作っていく中で、できるだけコンピュータのシステムを使いまして、効率的にと言いますか、そういう形になるよう考えていきたいと思っています。まず、コンピュータにするための業務の洗い出しと言いますか、どういうものをシステムに載せていくと楽になるかということをしっかし見極めた話をして進めていきたいと思っています。

福田部会長

それと今進んでいると思いますが、先程の話にも関連しますが、これからの地域医療の重要性ということが避けて通れないことですから、総合臨床医をいかに確保するかということと同時に、現場で在宅看護を行う場合の在宅医療をトップレベルで行うための看護師や保健師、あるいは、事務局との連携ということをどのようにして、例えば、端末を各医療担当者に持たせて、現場で起こったイベントをいかに全体のチームとして反映できるのかというような新しい在宅医療体制の確立ということが非常に重要な喫緊の課題にな

- ります。これをぜひとも、事務局先導で何とか新統合病院を核として、加賀市において実現されるように、是非、努力願いたいというふうに思います。
- 事務局 今、言われた在宅のほうについては、実は、昨年度から何度か医師会の先生方が中心になりまして、そこに、薬剤師会、また、病院の地域医療連携室、介護関係の職場の方々にも入っていただきまして、いわゆる、ドクターのほうから介護等の施設の引受先として、どのような方がいて、どのようなことができるのかが見えるような関係を作って進めていくという話し合いが、顔の見える関係ということを念頭に置きまして話し合いは続けています。また、それとは別の話で、県のほうの肝いりと言うか、予算をいただきまして、今、加賀市民病院、山中温泉医療センターの診療内容について、医師会の先生方の中でも見られるというシステムが導入の予定です。今、先生が言われた、2つ在宅で見られることを、さらに、システム化されて、より効率的に回していくという接点の話をいただいたということで、今後、それを念頭に置きまして進めていきたいと思っています。ありがとうございます。
- 福田部会長 ありがとうございます。期待しています。他に意見はないですか。それでは、③番にいつてもらえますか。
- 事務局説明 (1) 看護師養成及び確保について ③【ネットワークづくり】の観点
- 福田部会長 ありがとうございます。これはどうですか。今の最後の診療所だけでなく、看護学校における意見がかなり出たと記憶があるのですが、卒業生のネットワークづくりはどのように進んでいますか。
- 久保出委員 この部会の助言をいただきまして、早速、同窓会を作るということで、今、働き掛けをしている最中です。します、しますという声はすぐ挙がりますが、なかなか行動が伴っていないのが現実です。あの後すぐに行動しましたので、反応はありますが、実際にできていませんので、次年度に入りましたら、今度は学校側を主体にそういう会を組織するという形で、今度は投げかけていこうというふうに思っています。会長等も決める必要があるかなと思ひまして、その辺について1期生は喜んでという声があります。声があるだけで行動は今のところできていないのが現実です。早速、学校一丸となってやっていきたいと考えています。
- 福田部会長 この部会で決めていただいたこと、例えば、奨学金にしても、それから、人員の増にしても、かなり、具体的に事務局を中心に進めていただいていることを非常に喜んでいますが、スピード感を持って現実のものとしていただきたい。いかに看護学校の目的をはっきりと明確化して、看護学校の卒業生を取り込んだ新しいネットワークづくりをやっていくということは、非常に大事なことになってくると思いますので、よろしく願いいたします。
- 久保出委員 来年度、平成26年度には、第1回の総会をするように、今、準備を進めていきたいと思っています。
- 福田部会長 他に、③ネットワークづくりについて意見はないですか。実際に、今、ネ

ットワークづくりもかなり具体的には進んでいるのですね。

西委員

病院としては、在宅への移行ということを考えまして、病院の看護部とケアマネといった介護施設で働く方達との交流の場をお互いに知ろうということで、今年度は年3回、病院に集まっていたいただいて、お互いに紹介したり、どのように連携しあったら良いかということをお話し合っています。続けていきたいと思っています。

福田部会長

そのときに、先ほどちょっと、次長のほうから話がありましたが、1人1人の患者についての情報の共有というのは、どの程度進んでいますか。

西委員

当病院から退院した人は、どのような介護施設とか、どのような生活をしているか、実際に見に行ったりもしています。それで、情報も得ていますので、この引き継ぎ方は良かったのか、悪かったのかというような話し合いもしています。

福田部会長

もう少し突っ込んだ専門的な、例えば、どのような生活かということも大事ですが、どのような病歴があって、現在、どのような病気で、どのような服薬をやっているかというようなこと。あるいは、合併症の進行の程度とか、そういうことの情報を共有されていますか。

西委員

それはしています。サマリーで紙として送っていますので、それはできているとは思いますが、その後、どうなったのかというものは、反対に情報が不足しているかもしれません。

福田部会長

先ほどちょっと、事務局のほうからも話がありましたが、そういうどの程度に情報を共有化していくかというのは検討が進んでいると。それを、是非、現実のものとしていていただきたい。だから、いかにして、在宅医療をいくつかの異なる職種間で情報共有して、最先端の医療を提供できるかということなので、ただ、ちょこちょこ口で伝達したとか、紙切れに書いて伝達したというようなものではなくて、本当の意味で患者さんの症状から、病歴、現在の治療まで、それから、何か新しいイベントが起こった場合に、それに対する情報の共有というようなことがちゃんとスムーズに進んで、初めて在宅医療が在宅医療として成り立つ。そうでなければ、在宅医療とは言えなくて、要するに、病院に来るのを拒んで放ったらかしにしていると言われてもしょうがないわけです。そうではなくて、積極的に最先端の病院にいるのほとんど準ずるような治療が慢性疾患に対して、どのようにしたらできるかという課題だと思います。それを、是非、事務局と一体となって実現していただきたい。だから、これには思想の転換が必要です。今までと同じような思想で在宅医療をと考えていただいたら時代に遅れます。ほかにないですか。それでは、次に進んでください。

事務局説明

(2) 看護師養成所について

福田部会長

ありがとうございました。この最後の「将来の看護学校の整備を考慮し、」という文章だが、今、現在の敷地よりも面積が広く確保されているのですか。

- 事務局 敷地の面積的には今の用地とさほど変わらないという形ですが、日影制限等の制限はありませんので、上の方に積む分には、今より制限はないという形になっています。
- 福田部会長 それは、今の看護学校の教員やスタッフ等の意見が、取り入れられるような形となっていますか。
- 事務局 具体的な検討はまだ進めてはいませんが、用地の面積としては取り入れることは、十分にできる内容で確保しています。
- 福田部会長 そのときに、当然、考慮されているものと思いますが、教育環境というのは極めて重要です。奨学金も事務局の理解のもとにつけていただいたと。定員増もやっていただいたと。これは非常に喜んでいますが、やはり、教育環境というのは極めて重要ですから、そこに、建物も含めて素晴らしい環境が保持されていると、それだけで行ってみようかと、そこで、勉強したいなどと思って来る学生が増えてきます。随分、それで違いますので、その点は十分考慮した上で、教育に支障のないような、あるいは、積極的に教育を推し進められるような斬新な計画もできるだけ取り入れていただいて、最先端の教育を可能にするような設備に、是非、していただきたいというように思います。その折には、現教育スタッフの意見が十分に反映されるようなコミュニケーションを取っていただきたいと思います。ほかにないでしょうか。
- 上田委員 建物等の残債を考慮し、大部分の償還が終了するのは平成37年度までを目途としてというふうになっているのですか。できるだけ早くという言葉は聞きましたが、それが1つ。
- 事務局 もう1つは、福田先生が言われたように、素晴らしい環境ということで、現在も看護学校の先生方とか、あるいは、学生がどういうことを考えているとかということの意見を求められたことはありますか。
- 事務局 なるべく、早期に併設、移転ということは、しっかり書かせていただきましたが、1つの残債等、金額的な状況を示すものとして平成37年度までが、大きな借金の部分が残りますので、そちらのほうの償還の目途といいますか、場合によっては、その償還を続けながら移転することも使い方によって可能ということも含めていますが、平成37年度までがひとつの借金の目途があるという形で、これを書かせていただいたという次第です。細かい新しい病院の併設の内容については、これからという側面がありますが、学校の先生方と相談して、具体化してきましたら進めていきたいと考えています。今のところ用地としては、病院の建物から道一本分、二本分を挟んだところの敷地がある道ですが、そのところに用地を確保しているということで実習に来られる生徒、あるいは、講義に行かれる先生方にも通う分には負担にならないようなところと考えています。
- 福田部会長 今、上田委員が言っていたことと一緒に、特に、学生の就学環境、例えば、福祉機能、学校において福祉スペースと言いますか、学生が十分にそこで勉学の間で休めるというようなスペースを含めて、本当に素晴らしい看護学校になったなと思えるような施設にしていきたいと。予算もありますが、

これは事務局の力で、是非、よろしくお願いします。

久保出委員

会議の中でも何度も何度も申し上げましたが、しつこいようですが、もう一度言わせていただきたいと思います。10年間というものがどれだけ長いものなのかということをよく考えていただきたいと思います。この協議の中にさりげなく移動負担の増加という、たった7文字で書かれていることがどれだけ大きいことなのかということをもっともっと具体化をして、どういうことなのかということをよく考えていただきたいと思います。それによって、やはり、学生数、応募者数が激減することも予想されますし、そうすると、残債の問題もあることは重々承知していますが、それで良いのかというところが非常に不安になります。かつて、富山市立の看護学校を見学させていただいた時に十何年間か離れていた時の経費がばかにならなかったという話も聞きます。もちろん、学生も大学化の時代で、かなり、あちこちに看護大学ができていてうちの学校が選ばれている今の1つの大きな理由は、横に実習施設があるからというのが本当に大きな目玉になっています。それもなくなくなったときに、学生数をこれだけ確保できるかという不安もあります。本当にたった7文字のことですけど、その中に含まれている大きなことを考えていただいて、10年間というのが、これはあくまでも目途なので、ひょっとしてそこから延長する可能性も考えられるかと思います。その辺も10年経ったらもうそちらへ行っているという確約でもないですし、もっと学生の利用、応募、あるいは、その中での学習環境等についても再度考えていただき、できるだけ早期が10年未満であることを願っています。よろしくお願いします。

福田部会長
上田委員

これは目途というよりも限度ですね。

今、久保出委員が言われたように、移動負担の増加、7文字なのですが、実際に、金銭的なものなのか、時間的なものを一緒に考えてください。どの程度の負担になっているのか。すごいお金だったら大変なことです。時間のロスも大きいでしょうし。

福田部会長

これは議論の時も、事務局の現在の残債ということ考えた上で、全部完済するのは10年掛かるだろうという意見が、事務局のほうから出されたと承知しています。けれども、この部会の意見としては、できるだけ早期にというのが非常に強く出されているので、そのことはここにもう少し強く反映していただいたほうが良いのではないかと。あるいは、項を改めて書いていただいても結構ですが、実習の現場に行くために要する時間的なロスと経費的なロス。移動に掛かる往復に要する時間的なロス、あるいは、費用がかさむと。あるいは、スクールバスも考慮しなければならないかもしれないということも含めて、それに取られる運転手の人件費も掛かるわけです。そういうことも考えると難しい問題なので、これはできるだけ早期にやっていただくということが大事かと思います。今、久保出委員から話がありましたが、応募者がそれによって激減してくることがあっては何もならないですからね。そのところの考慮を、是非、お願いします。ほかにないですか。それでは、

全体を通して、どこでも構いません。意見はありませんか。

久保出委員

この資料の中にも書かれていますとおり、平成26年度より加賀看護学校の定員数を30名から36名に増員になったとあります。厚生労働省に認可されて、そういうことになりましたが、一度是非、加賀看護学校を御覧いただければと思いますが、36名入ったら身動きも取れない状況になっています。その辺も承知していただいて増員ということで、私たちも頑張りますが、是非、移転に繋げていただく1つの材料にしていだけたらと思います。よろしくお願いします。

福田部会長

私も看護学校で教えた経験がありますが、6名増えたら、ちょっと教室も大変ですね。

久保出委員

一応、あの時よりも1.5倍にはなっていますが。

福田部会長

そうですか。あの時でも、もう一杯でしたよね。ほかに何か意見はないですか。西委員、いかがですか。

西委員

今の看護学校の併設のことにに関して、できるだけ早くに病院の側にということもそうなのですが、今、福田先生も言われましたが、その間の保証というものもしっかりしていただかないと、病院側が講師として出向くのも大変です。教育の環境ということもありますが、お互いの病院の職員とかのいろんなことを考えて、保証できるように何か考えていただきたいなと思っています。

福田部会長

ちょっと順不同と言いますか、ランダムにはなりますが、今、加賀市民病院のほうで、アルバイトとして働いている学生は何人ぐらいいますか。

西委員

今は3人です。

福田部会長

ほかに希望はないですか。

久保出委員

ないです。

福田部会長

もうちょっと希望者がいても良いのでは。その辺はいかがですか。

久保出委員

本当に働きやすい時間や環境を設定してくださっているので、学生に対しては何度も何度もPRしていますが、いかんせん安いので、みんなもっともっと高いところがいろいろあって、そちらのほうへ行くというところがあります。

福田部会長

要するにコストが高いから、しっかりしてますね。

西委員

コストの関係ですが、学生のアルバイトは看護補助者としてのなのですが、一般の補助者よりも勉強しつつということで、コストが安くなっています。その辺がちょっと学生のほうは引っ掛かるようです。

福田部会長

学生にとっては少しでも高いほうが良いというもので、教育をやっているから、その分だけ安くても良いというふうには、なかなか学生は取ってくれませんので、もう少し上げてやるわけにはいかないですか。事務局、いかがですか。

事務局

看護補助者ということでのアルバイトということなので、一度、こちらのほうで持ち帰って検討したいと思います。

福田部会長

これは、単に学生の就学支援ということだけではなくて、先ほど、西委員

からも話がありましたが、実際に、アーリーエクスポージャーとして、早くから現場に慣れ親しむということは、教育上大きなメリットがあります。やはり、本人のモチーフの高まると。モチベーションが高まって、何のために自分は看護を学んでいるのかということが、目の前に患者を見ますと、大分、学ぶ意欲も出てきます。だから、そういうモチベーションを高めるための1つの施策として、教育の支援であるというふうな立場を理解いただいて、ちょっとばかりでも良いですから、値上げしていただきたいと思います。少なくとも、他のところ並みにということで。それでは、一番後ろに部会の回数が書いてありますが、今日が第9回の会議になるわけですね。9回を24年の4月からやって来ました。これについて、全体を通して、何か感想でも構いません。何か意見なりいろんなことを述べていただいたらと思います。

久保出委員

加賀看護学校というものが、余り周知されていなかったところだったと思いますが、加賀看護学校が加賀市立の看護学校であるということは、ひょっとして、職員の皆様にも知っていただける良い機会になったのかなと思います。ただ、公立の学校であるということは全国的には知られていないところがありまして、学生の中で公立学校を選ぶ傾向もあります。いちいち私たちの学校は加賀市立の学校ですとPRしないと分かってもらえない状況にあるのは事実です。ただ、今のこの会議をすることによって、市の方々と多くの方に加賀市立の看護学校であることを知っていただけた良い場になったかなと思います。さらに、いろんなことで助言いただきましたことで、私たち教員自身も、もう少し私たち自身の周りを見直してもっと積極的に学生に関わっていけたらと思っています。隣接移転という大きな問題を残したままではありますが、それに対する支援もこれから、是非、皆さん方にさせていただくことをお願いしたいと思います。いろいろ感謝の言葉でいっぱいです。ありがとうございました。

上田委員

大きなことではないですが、医療機関としての話なのですが、ここへ来て山中温泉医療センターに出前講座があることを知りました。加賀市民病院もありますね。距離的な関係で山中温泉医療センターのほうから出前講座をしていただいたのですが、やはり、私たち医院というのは、金銭的なものもあると思いますが、遅れている面もあるなと感じています。また、職員や自分のためにも出前講座でいろいろ勉強したいなと思います。これが、私のところだけかもしれませんので、一般の医療機関でも活用していただければ非常に良いのではないかと、この部会を通して自分も知りました。

西委員

私は看護師の養成、確保ということで、今までは病院の中だけでやっていたものをこうやって市全体として考えていただけてすごく幸せだったなと思います。その反対にこれから自分たちが努力していく必要もあると思っています。ありがとうございました。

福田部会長

どうも、ありがとうございました。先ほども言いましたが、これで9回になるわけですが、つたない司会でありましたが、委員の皆さんの協力のおかげで、それから、事務局が非常に上手くまとめていただいたということで、

何とか任を果たすことができたのではないかなと思っています。本当にどうも、ありがとうございました。それでは、事務局のほうにバトンタッチいたします。

事務局 それでは、最後になりましたが、副市長のほうから委員の皆さんに一言お礼を申し上げたいと思います。

副市長 副市長の山下です。委員の皆様には2年近く、9回に亘りまして議論いただきました。人づくり、職場づくり、ネットワークづくり、という形の中で、その中から具体的な貴重な検討結果をいただいたと理解しています。会議の中でも出ていましたが、検討の中で出されました意見については、例えば、奨学金であったり、それから、看護学校の定数であったりというところについては早速、予算化し、実行に移させていただきました。部会長の話にもありましたとおり、この検討結果がここでの検討結果だけで終わってしまうことがないように、事務局としては責任を持って実行に移していきたいということで考えています。そのことが、この部会で議論いただきました養成であって、そして、より良い環境で仕事していただくことによって、看護師ができるというところに繋がってくるのだと思っています。そして、それが加賀市の新しい医療提供体制の向上、質の向上というなり、市民サービスの向上に繋がっていくというふうに理解しています。この後の予定ですが、この上部機関である加賀市医療提供体制推進委員会、今、統合新病院の建設計画が検証委員会といったことを受けていますので、それを終えたのちに委員会を開催したいと予定をしています。その推進委員会のほうには、この検討結果の報告をさせていただいて、先ほども申し上げましたが、実行に移していきたいと考えておりますので、報告をさせていただきたいと思います。どうも本当に、長い間に亘りまして、ご審議いただきまして、ありがとうございました。

事務局連絡

- ・ 本日で看護師養成部会は終了。
- ・ 今回の議事録案は、完成次第送付するので確認をお願いしたい。

以上